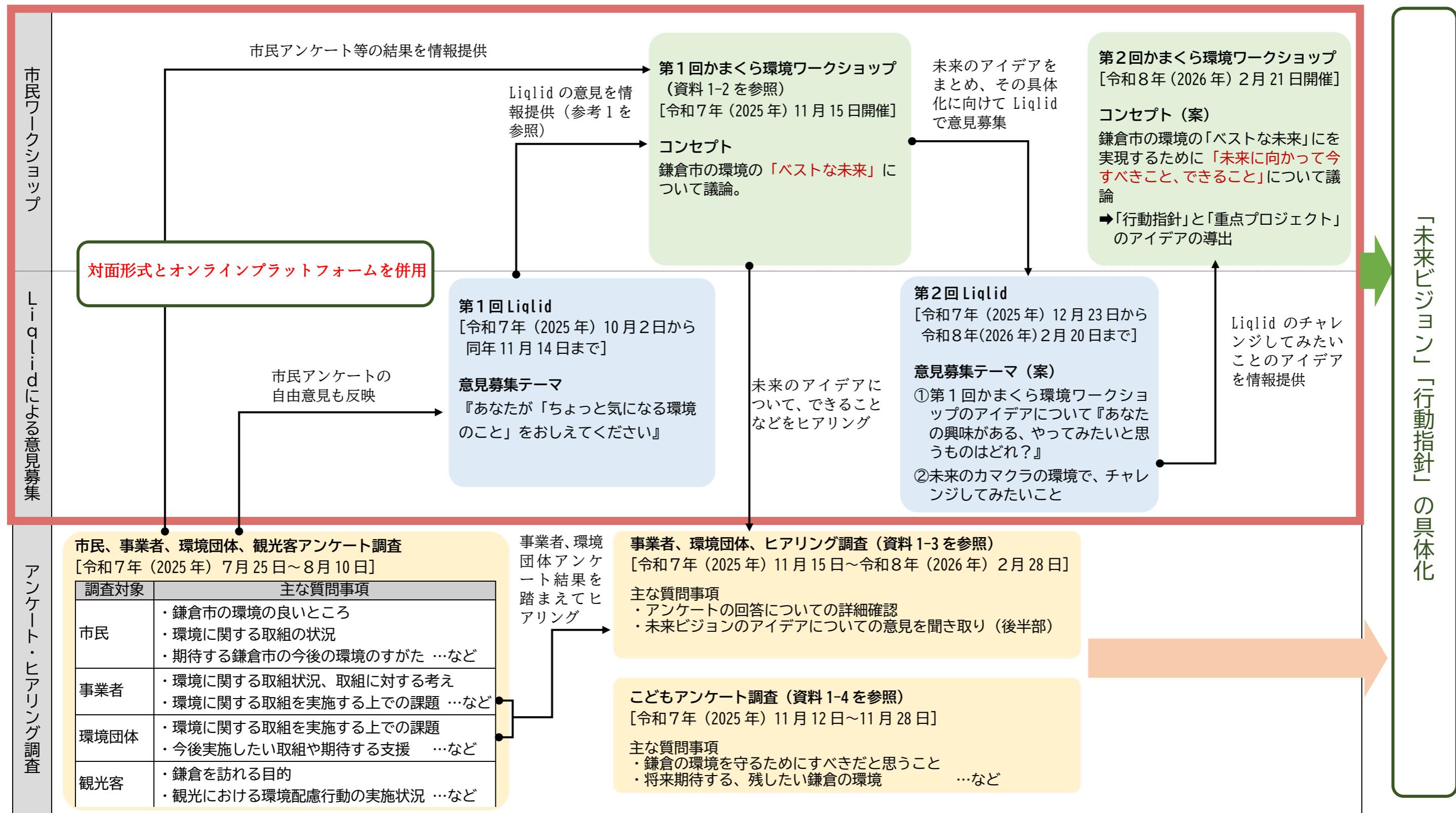


1. 具体化の方法

鎌倉市環境基本条例での環境保全の3つの基本理念を土台とし、アンケート、オンライン意見聴取及び市民ワークショップ等で集まった市民等の声を取りまとめ、鎌倉市の目指す未来のビジョンを1枚のイラストとして表現するとともに、市民や事業者、観光客がすべきことを「行動指針」としてまとめます。

以下は「未来ビジョン」と「行動指針」に関するアイデア導出に向けた具体化の流れを示したものです。



2. 意見取りまとめの方法

「未来ビジョン」と「行動指針」の取りまとめにあたっては、第1回市民ワークショップの結果（資料1-2）、市民アンケート・事業者アンケート・環境団体アンケート・観光客アンケート（前回環境審議会資料）、子どもアンケート（資料1-4）、市民団体・事業者ヒアリング（資料1-3）を分析、集約して、文言とイメージ図の検討を行います。

なお、その際、上位計画である「鎌倉市基本構想—鎌倉ビジョン2034—」及び「鎌倉市基本計画—鎌倉ミライ共創プラン2030—」、さらに現行の「第3期鎌倉市環境基本計画」の基本理念等を踏まえることとします。

① 第1回市民WSからの「ベストな未来」の主な意見・アイデア

第1回市民ワークショップでのベストな未来のアイデアを踏まえ、基本目標毎に主な意見・アイデアを整理しました。

「主な意見・アイデア」（資料1-2）	
基本目標1 脱炭素社会の実現と気候変動に適応するまち	<ul style="list-style-type: none"> ● 交通・エネルギーといった暮らし全般の脱炭素化を一体的に推進する。 ● 家庭・事業所・公共施設で省エネルギーの取組を定着させる。 ● 気候変動による海面上昇や災害、健康被害などの影響に、インフラの整備や緑の保水機能の向上、市民の危機管理意識の向上などによって適応する。 ● 若年層を巻き込む学びと実践機会を広げるとともに、危機感を持ちながらワクワク感のある市民参加の仕組みづくりを行う。
基本目標2 豊かな自然資本を守り、恵みを享受できるまち	<ul style="list-style-type: none"> ● 緑の「量」だけでなく「質（機能）」が維持・向上された自然環境を整備する。 ● 外来生物の侵入を防ぎ、生態系を健全に維持しながら、人と野生動物が「距離感を保ちながら共生」する。 ● 行政・市民・専門家との連携による効果的な自然保護活動や子どもから大人まで楽しく参加できる体験型参加プログラムを実施する。
基本目標3 歴史・文化的環境の保護活用が進むまち	<ul style="list-style-type: none"> ● 建物について外観が維持されながら内部が更新されるなど歴史や文化、景観の保全と調和する形で環境にやさしいまちが形成されている。 ● 観光地では観光需要の分散により過密が抑えられ、歴史と結びついたまちの静けさや自然環境が保たれている。 ● 風致地区等では歴史的な自然を守るため行政、市民、専門家が連携して活動を行っている。 ● 景観に配慮したごみ容器の設置など、ごみによる景観の悪化を抑制する。
基本目標4 安全快適な環境で健康に暮らせるまち	<ul style="list-style-type: none"> ● 観光客を排除するのではなく共存するための観光需要の分散・誘導・規制を検討するとともに、観光客のマナー向上のためにまず住民自身が高い美意識を持ち続けることで規範の創出を図る。 ● 観光客とのコミュニケーションの円滑化やルール啓発に向けた技術の活用や伝える仕組みの構築を検討する。 ● ごみを「発生させない・残させない」観光の実現に向けた制度やサービスを検討する。
基本目標5 循環型社会の形成が進むまち	<ul style="list-style-type: none"> ● リデュースの徹底により、まずごみを「出さない」ことを推進する。 ● 「リユース・修理」の日常化とともに、アップサイクルが文化として根付くことを目指す。 ● 「所有」から「共有」への意識の転換や地域での資源循環への市民意識として根付かせる。 ● 地域連携や地域の誇りを通じて、ごみの分別促進やごみ問題の改善を行う。 ● 災害時など非常時においても廃棄物を適切に処理できる体制が構築する。
基本目標6 環境保全に関する共創・連携が広がるまち	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境意識が高い人が尊重されるとともに、誰もが安心して参加できる心理的安全性の高いコミュニティを目指す。 ● 子ども・若者・企業・地域をつなぐ参加の仕組みづくりを検討する。 ● インセンティブ（特典・称賛・可視化）による継続参加の促進を図る。 ● 多様な媒体を通じて、環境活動への参加につながる情報や環境に関する情報を、多忙な人達や若い世代をはじめとした多様な主体に周知する。

② 各種調査結果のポイント

アンケート調査及びヒアリング結果から主なポイントを整理しました。

調査		調査結果のポイント
アンケート調査	市民	<ul style="list-style-type: none"> ● 歴史・文化と自然の一体感を鎌倉市の良いところと考えており、将来像として歴史・文化と結びついた自然環境や景観の保存への要望が多く回答された。 ● ごみの削減や分別や節電の取組の実施率は高いが、環境保全活動への参加率は低く、環境に関する取組の課題として6割が「個人だけで取り組むことがむずかしい」と回答している。 ● リサイクル率が全国トップであることを知っていた人は全体の3割に満たない状況
	事業者	<ul style="list-style-type: none"> ● 約9割が環境問題に关心を持っており、環境保全の取組について、社会的な責任（CSR）から必要と考えている。 ● 約6割がごみの削減分別・リサイクルや節電の取組を行っているが、自然環境保全活動の主催や参加をしている事業者は1割未満であり、環境保全活動実施にあたって労務上の負担の増大や知識やノウハウ不足が課題となっている。
	環境団体	<ul style="list-style-type: none"> ● 多くの団体で人員の確保や後継者不足が活動の課題となっている。 ● 多くの団体が鎌倉市内の民間事業者との連携を希望している。
	観光客	<ul style="list-style-type: none"> ● 約8割が「寺社・仏閣の拝観」を目的に来訪している。 ● 観光での環境にやさしいサービス（鎌倉フリー環境手形やパーク＆ライドなど）は認知度が低く、あまり利用されていない。 ● 観光客の1割弱が海の清掃美化活動に参加したことがあり、今後参加してみたいと考える人も約4割いる。 ● 約6割が本市でのエコツーリズムに关心があり、「歴史」や「自然」を体験したいという希望が多い。
ヒアリング調査資料	子ども	<ul style="list-style-type: none"> ● 自然環境や生活環境に関する意見が多く、特にごみのポイ捨てについては海洋プラスチックによる生態系への影響や景観を悪化させるなどの問題と絡めた意見が出された。 ● 小中学生は高校生以上と比べて「二酸化炭素をへらすこと」や「きれいな空気をまもること」、「ごみのポイ捨てやらかがきをなくすこと」、「野生の動物、植物とそれらが生きる場所をまもること」を重視している。
	事業者	<ul style="list-style-type: none"> ● 現時点でも美化活動や教育・啓発活動について学校や市内外の市民団体等との連携が行われている。 ● 本市の補助等の支援制度や市内の環境保全活動に関する情報について、発信の強化や団体の紹介などを希望する事業者もあった。 ● 多くの団体から、行政が事業者や他団体とのマッチングする役割を果たすことを要望が出された。 ● 他団体とは緩やかなつながりを持つことが望ましく、交流会などの情報共有の場を設けることの要望があった。 ● 環境や企画・運営に関する専門的知識だけでなく、鎌倉をよく知っている人材が重要であるとの指摘があった。 ● 市民への啓発のために、小中学校等での教育や楽しく参加できる活動が重要であるとの指摘があった。

③未来ビジョン（案）とイメージイラスト（案）の導出について（今後はこれらをさらに精査したうえで、未来ビジョンを決定し、イメージのイラスト作成等を進めます。）

今後、第1回のワークショップと今年2月に実施予定の第2回ワークショップの結果を踏まえ、未来ビジョン（案）とイメージイラスト（案）【資料2 計画骨子案 p.16に記載予定】を導出します。

未来の ビジョン

■イメージイラスト（案）

※本イメージ案はたたき台にあるものです。第2回ワークショップの結果等を踏まえて、内容を精査したうえで、イラスト化します。

未来（2050年）の鎌倉市では…

1. 気候変動対策では

- ① 交通・エネルギーといった暮らし全般の脱炭素化が一体的に推進され、カーボンニュートラルな社会が実現しています。
 - ② 気候変動による災害激甚化、夏の高温などの影響への適応策が浸透し、気温上昇が続く中でも市民や事業者は賢明に対応しながら安心して暮らしています。
 - ③ 地球規模の問題危機感をもちつつも、ワクワク感を大事にした市民参加型のイベントや教育が行われ、地球温暖化の防止に向けた持続可能な活動が根付いています。

2. 自然環境の保全では

- ① 緑地の適切な管理により、鎌倉の貴重な緑が守られています。
 - ② 緑の多様な機能（景観、災害抑制、CO₂吸収、雨水貯留、生態系保全など）が維持されています。
 - ③ 野生動物と人の活動するエリアがすみ分けられ、在来の動植物及びその生息域が守られています。
 - ④ 自然や史跡を楽しみながらのハイキングやクリーンアップなど、歴史や文化、自然共生を学ぶエコツアーハイキングが行われています。

3. 歴史・文化の保全と活用では

- ① 昔ながらの景観を残しながら、環境性能の高い建物に更新されています。
 - ② 観光客需要の分散やマナーの啓発により、まちの静けさや歴史的な自然環境が保たれています。
 - ③ 風致地区等で歴史的な自然環境を守るために、行政、市民、専門家等が連携して保全活動を行っています。

生活環境の保全では

- ① 観光客のごみの持ち帰りが定着し、ポイ捨てや落書きのない、快適できれいなまちが保たれています。
 - ② 市民の持つ高い美意識が鎌倉を訪れる人にも共有され、滞在する全ての人に環境保全の行動規範が定着して、静かで安心できる生活環境が保たれています。

5. 資源循環では

- ① リフューズ、リデュースの徹底とともに、リユースやリペアの日常化とアップサイクルが、鎌倉の文化として根づいています。
 - ② 「所有」から「共有」への意識転換が進み、地域における資源循環への市民意識が当たり前のこととして定着して「ごみという概念のないまち」になっています。

6. 共創・連携では

- ① 子ども・若者・企業・地域をつなぐ参加の仕組みが広がり、誰もが安心して参加できる、心理的安全性の高いコミュニティが育っています。
 - ② 市民に情報が届きやすい仕組みや、インセンティブ（特典・称賛・可視化）による継続参加の促進を図る取組が様々に進められています。
 - ③ 環境団体の活動に参加する人が増え、団体間の有機的な連携が進められています。
 - ④ 環境教育が必要な人に提供されています。